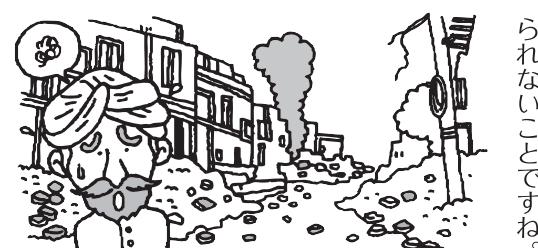
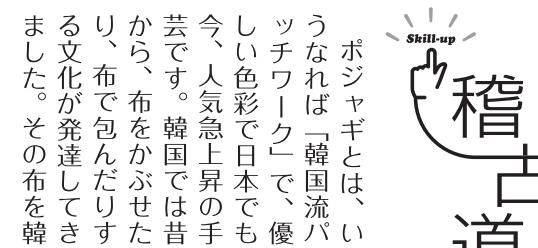


建物の7割以上が違法建築という信じられない都市があります。インドのデリ市です。いや、正確にいって「あります」というです。そのやり方で突

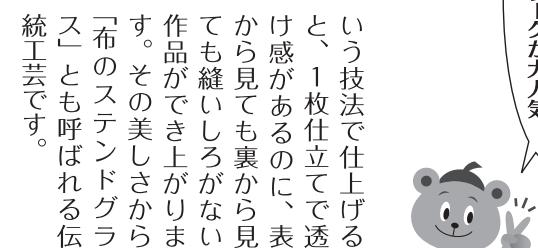
然ブルドーザーで建築部分を容赦なく破壊していくという荒技だったようです。



うないことですね。



「ポジヤギ」とは、韓国では「パッチワーカ」と呼ばれる。韓國のパッチワーカが大人気。



感動のロンドンオリンピックでした。



住まいの歴史 HISTORY OF LIFE

思い出してみてください。幼い頃、積み木遊びで家を作る時、最後に三角形の積み木を一番上に乗せて完成させていました。したがって完成させたか。そう。屋根といえば「三角形」。それが定番でしたよね。今回、そんな屋根の始まりについて学びます。

そもそも屋根とは…?

まずは「屋根」とはいか、その基本的な役割について調べてみましょう。「屋根」といえば、皆さんもご存知のように、建物の上部を覆う構造物です。その役割は、外の大候の変化、たとえば雨や雪、強

風や太陽の強い日差し、気温の変化、近年では工場のばい煙や大気中の粉塵を防ぐことなどが挙げられます。また屋根のデザインは、その土地の風土によってさまざま。たとえば、積雪で家屋が押しつぶされるのを防ぐよう尖がっているものや、緩やかな曲線を描くもの、そして平らなものなどもあります。日本家屋の屋根は切妻や寄棟、入母屋など、ほとんどが三角形をしていて、その素材も、茅葺、トタン、レンガ、瓦、コンクリートなどさ

ったところで、次は屋根の歴史。日本最古の屋根はどんな時代。この時代の人々は獲物を求めては次の場所へと移動する必要があり、必要がありません。それでも、数本の棒材を、必要な

「建具」という言葉は耳にしたことはあっても、それがどんなものかを知らない方も多いのではないか。建具とは、ドアや窓、障子、ふすまなど、開閉して使う部分の総称のこと。日本家屋でフレキシブルに活躍す

る建具というものがいつからあつたのか正確なことは分かつていませんが、現存する最古の建具は法隆寺金堂の入口の板戸だといわれています。寝殿造りといわれる平安時代の貴族の住宅には、各々の仕切りとして、凡張

や衝立が用いられていて、内部は一部を除いては壁があります。寝殿造りといわれる平安時代の貴族の仕切りとしても引戸と、だんだんと外部との仕切りにも引戸が用いられるようになり、採光のための

桃山時代から江戸時代になると、書院造りといわれる住居に、仕切りとともに、障子と板戸の雨戸とが併用され、内部では襖にさまざまな意匠が施されるようになりました。やがて

明り障子や、柱の間に引違の襖を設けるようになりました。これによつて日本の開放的な住居に、仕切りといわれる「部屋」としての空間が誕生したのです。

今、いうインテリアついたので、そのために、建具職人は材料を慎重に厳選し、美しい細工が施されるようになります。つまり、建具は単なる仕切りという機能的な存在ではなく、今でも折り重ねはぎと

住まいの歴史 HISTORY OF LIFE

思い出してみてください。幼い頃、積み木遊びで家を作る時、最後に三角形の積み木を一番上に乗せて完成させていました。したがって完成させたか。そう。屋根といえば「三角形」。それが定番でしたよね。今回、そんな屋根の始まりについて学びます。

そもそも屋根とは…?

まずは「屋根」とはいか、その基本的な役割について調べてみましょう。「屋根」といえば、皆さんもご存知のように、建物の上部を覆う構造物です。その役割は、外の大候の変化、たとえば雨や雪、強

風や太陽の強い日差し、気温の変化、近

年では工場のばい煙や大気中の粉塵を防ぐことなどが挙げられます。また屋根のデザインは、その土地の風土によってさ

まざま。たとえば、積雪で家屋が押しつぶされるのを防ぐよう尖がっているものや、緩やかな曲線を描くもの、そして平らなものなどもあ

ります。日本家屋の屋根は切妻や寄棟、入母屋など、ほとんどが三角形をしていて、その素材も、茅葺、トタン、レンガ、瓦、コンクリートなどさ

ったところで、次は屋根の歴史。日本最古の屋根はどんな時代。この時代の人々は獲物を求めては次の場所へと移動する必要があり、必要がありません。それでも、数本の棒材を、必要な

「建具」という言葉は耳にしたことはあっても、それがどんなものかを知らない方も多いのではないか。建具とは、ドアや窓、障子、ふすまなど、開閉して使う部分の総称のこと。日本家屋でフレキシブルに活躍す

る建具というものがいつからあつたのか正確なことは分かつていませんが、現存する最古の建具は法隆寺金堂の入口の板戸だといわれています。寝殿造りといわれる平安時代の貴族の仕切りとして、凡張

や衝立が用いられていて、内部は一部を除いては壁があります。寝殿造りといわれる平安時代の貴族の仕切りとしても引戸と、だんだんと外部との仕切りにも引戸が用いられるようになり、採光のための

桃山時代から江戸時代になると、書院造りといわれる住居に、仕切りとともに、障子と板戸の雨戸とが併用され、内部では襖にさまざまな意匠が施されるようになりました。やがて

明り障子や、柱の間に引違の襖を設ける

まるとみ新聞 Vol.25

newspaper
'12 Aug.

新聞

発行所 丸富産業
北九州市若松区本町1-1-33
093-751-1081

すまいdeスマイル
12年8月号

スペースを囲い込むように地面に突き刺して結びます。この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくるトのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。

りした「堅穴式住居」です。まず、地面を50センチほど掘り下げて作った床面に4本の太い柱をたて、柱から地表面に垂木を配し、これに熊笹を葺いた

スケートの上部で交差する叔首(さす)を架けて、その先端で棟木を受けて、その太い柱をたて、柱から地表面に垂木を配し、これに熊笹を葺いた

50センチほど掘り下げて、その上端を束ねて、その上端を束ねて、この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくる

トのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。

りした「堅穴式住居」です。まず、地面を50センチほど掘り下げて、その上端を束ねて、この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくる

トのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。

りした「堅穴式住居」です。まず、地面を50センチほど掘り下げて、その上端を束ねて、この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくる

トのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。

りした「堅穴式住居」です。まず、地面を50センチほど掘り下げて、その上端を束ねて、この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくる

トのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。

りした「堅穴式住居」です。まず、地面を50センチほど掘り下げて、その上端を束ねて、この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくる

トのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。

りした「堅穴式住居」です。まず、地面を50センチほど掘り下げて、その上端を束ねて、この骨組みに動物の皮や草を使つて覆う円錐状の住まいが登場しました。イメージ的に西部劇に出てくる

トのよな家で、屋根と住まいが一体化した平地住居でした。